



学校通信

令和2年9月1日
東京都立葛飾盲学校長
田島 忍
(第5号)

私が「鉄」になったのは…「視機能評価」

支援部 丹羽弘子

「校長先生の専門は『貨物』なんだって！私の専門は『新幹線』。キミの専門は何？」…私(丹羽)が子供たちと交わっている電車についての会話です。

以前、別の盲学校に勤務していた時のことです。私は、教育相談の担当として就学前のお子さんを通う療育施設に出かけていました。目の使い方不安があるというお子さんの視機能に関する評価と生活や遊びに関するヒントを提案する、という職務です。お子さんたちは、みんな初対面。「この人、誰？」「怖いなあ」という緊張の面持ち。あっという間に泣き出してしまいそうな空気です。

視機能の評価をする私の持ち時間は20分。お子さんが一度泣いてしまったら、その日の評価はできません。せっかく相談の時間をつくったのに…という残念なことにならないように、「怖くない人」…いや「楽しいことをしてくれる人」というキャラクターづくりをどうするか？そうだ！…思いついたのが電車のおもちゃです。電車のおもちゃは多くのお子さんが笑顔で受け入れてくれました。「この人、楽しい」…そんなキャラクターを目指して始まった私の電車のおもちゃ集め。いつしか本当に楽しくなって、本物の「鉄」になってしまいました…。

視機能の評価をなぜ行うのか。それは、お子さんの見え方を知って、生活や遊びがより良いものになるヒントを探るためです。緊張して遊んでいるお子さんはいません。安心した生活で、どんな風に目を使っているのか。それを探るために、相談の担当者として「この人、楽しい」のキャラクターづくりをします。これも教育相談担当者としての専門性かな、と都合よく思ったりしています。

今年度小学部は、1年生1名の新入生、6年生2名の転入生を迎えました。本格的な学校再開後は、いつもの学習の流れの中に、季節の集会活動や、お楽しみ会などの児童会活動を取り入れて、交流内容を工夫しながら行うことができました。各グループの出し物の発表では、どの児童もにこやかな表情で、参加している様子が印象に残っています。自分から異なる学級・学年の友達と関わったり、練習してきたことを友達の前で発表したりという取組を通して、また一つ児童の成長を感じることができました。

(小学部 小塚武頭)



お楽しみ会 出し物の発表

児童会会長の挨拶